

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.171

2016年7月19日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

よりインクルーシブな教育をめざして 障害児教育部会 授業研究会

南あわじ市の小学校で、障害児教育部会の研究授業がおこなわれました。1年生の担任がT1、特別支援学級の担任がT2となり、「図画工作」の「くるくるまわして」という題材でおこなった授業でした。児童は、午前中に水泳の授業もあって疲れているにもかかわらず、最後まで集中して授業にとりこんでいました。



大きな紙コップを使って、はさみで切り込みを入れ、コップの底に穴をあけ、糸を通して止めて、風でくるくる回るようにする題材でしたが、すべての児童が、ほぼ最後まで作ることができました。しかし、風で回したり、回ることによって羽につけた色の変化を楽しんだりする時間はとれず、その部分は次の授業で時間をとることになりました。



特別支援学級に在籍する児童も、教員の話をしっかり聞いて行動することができており、周りの児童とのかかわりも良好でした。また、紙コップに色を付ける段階でグループ活動になり、出来た作品をグループ内で見てまわったり、まだできていない友だちの作品を手伝ったり、お互いの作品を批評し合ったりということがごく自然にできていて、特別支援学級の児童もその流れの中で、自ら考え、活動していました。

授業後の研究会では、まず、よりインクルーシブな教育をめざして、全教職員の共通理解のもとにとりくみ始めた「全交流」（交流学級での学習を基本とし、必要に応じて個別に学習する）について報告があり、保護者や地域の方からも理解を得ていることなども報告されました。

その後の協議の中では、「障害のある児童だけを気にかけるのではなく、まわりの児童との関係を見ながら友だち関係をどう構築し、その中でどう支援していくかが大切である」と協力研究所員から助言がありました。他にも、具体的な場面、具体的な発言をもとに、その児童の学びと今後の課題や支援のあり方・方向性について協議され、充実した授業研究会となりました。